

【編集後記】

年が明けて、新しいNHK大河ドラマ「どうする家康」がスタートしました。徳川家康という、日本人なら知らない人はいない「超有名歴史上人物」が主人公、しかも好き嫌いが大きく分かれる人物なので、どのように描かれるのか、興味津々でした。

始まって間もないので、家康はまだ青年期ですが、一般的にイメージされる「家康」とはかなり趣の異なるキャラ設定のようです。子どもの頃から弱虫で優柔不断、また桶狭間の戦いで、今川義元が織田信長に討ち取られたと知るや、どうしてよいか分からず、その場から逃げようとして家臣らから突き上げられてしまうような、いわゆる「ハタレキャラ」なのです。

視聴者の中には、人間味があってかわいいという人もいれば、これまでの小説やドラマで描かれた家康像とのギャップが不満で、離脱する人も少なからずいるようなのですが、まだ先は長いので温かく見守りたいと思います。

徳川家康といえば、約150年にも及ぶ戦乱の世に終止符を打った英雄であることには間違いありませんが、他方、徳川家安泰のために権謀術数の限りを尽くした「たぬき親父」というイメージを持っている方も多いのではないのでしょうか。特に司馬遼太郎は、その著作を読む限り、あまり家康がお好みではなかったようです。

『霸王の家』という家康を主人公にした小説のあとがきで、「かれ（家康）がその基礎を堅牢に築いて二百七十年つづかせた江戸時代というのは、むろん功罪半ばする。（中略）世界の普遍性というものに理解のとどきにくい民族性をつくらせ、昭和期になってもなおその根を遺しているという不幸をつくった」と書き記しています。しかも「その権力の基本的な性格はかれ（家康）自身の個人的性格から出ているところが濃い」とまで断じているのです。そこまで言わなくても…という気がしないでもありませんが、世に司馬遼太郎ファンはあまいたるので、その影響は大きかったように思います。

好き嫌いは別として、「パクス・トクガワーナ」とも呼ばれる、約270年に及ぶ天下太平を日本にもたらしたという功績については、反論の余地がないと思うのですが、いかがでしょうか。

ドラマの若き徳川家康は、この後も忍従の日々が続き、「どうする、どうする」と迫られる場面が連続するはずですが、それらをどう描いてくれるのか、楽しみに見ていきたいと思ひます。

(sage)

電機

2023年2月号 No.831
2023年2月20日発行

頒価550円(本体500円)

発行 **JEMA** 一般社団法人日本電機工業会
THE JAPAN ELECTRICAL MANUFACTURERS' ASSOCIATION

編集兼発行人 提嶋 毅



〈表紙の言葉〉

誌名のローマ字表記である“DENKI”をメインビジュアルとすることで、電機産業の発展が社会や人々に貢献し続けた歴史を振り返るとともに、より安心で便利な未来のために、これからもますます進化し続けたい、という思いを表現しています。

〈誌面の文字例〉



本誌で使用する文字は、読みやすさを求め、多くの人が利用可能なデザインをコンセプトとした「ユニバーサルデザインフォント」を基本にしています。

当機関誌『電機』では、編集に当たり表記の統一を図っておりますが、一部記事につきましては、筆者的のご意向を尊重させていただきます。

(JEMA会員については会費中に本誌頒価が含まれています) [2023 © 禁無断転載]

印刷所

港北メディアサービス株式会社 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7

- 本部 〒102-0082 東京都千代田区一番町17番地4 電機工業会館
電話 03-3556-5882 ファクシミリ 03-3556-5892 本誌 編集部
- 大阪支部 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-25 中央電気倶楽部4階
電話 06-6344-1061 ファクシミリ 06-6344-1837
- 名古屋支部 〒460-0008 名古屋市中区栄2-10-19 名古屋商工会議所ビル6階
電話 052-231-5211 ファクシミリ 052-231-5610
- 九州支部 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2-1-82 電気ビル北館10階
電話 092-761-4778 ファクシミリ 092-751-2094



- 東京メトロ半蔵門線 半蔵門駅(Z05)下車 4番出口より徒歩3分
- 東京メトロ有楽町線 麹町駅(Y15)下車 3番出口より徒歩7分